

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おゝさと

第 61 号

(題字は支部長)
令和8年8月1日
発行者
神谷為義

次世代を担う

子どもたちの育成

副支部長 松村 行康



寄居町に
おいても人
口減少や高
齢化が進み、
歳月の流れ

とともに、人々の働き方・暮らし方や価値観が変わり、町も変化してきている。そのような変化の中で、その時々々の価値観に応じて自分らしい働き方・暮らし方を選択し、住み続けられる魅力あるまちを育て、次の世代に引き継げるよう、努力を続けていかなければならない。

このような町の施策を受け、私代表を務めている寄居町社会教育委員会では、施策の実現に向けた社会教育のあり方を考えるとともに、テーマを「次世代を担う子どもたちの育成」とし、地域コミュニティが希薄になり、地域の子どもたちの育つ環境が変化する中、

「持続可能なまちづくり」においても重要な課題として位置づけ、調査・研究を行うこととした。

一 生活実態から見えること

「勉強以外で得意なことがある」とした項目の回答が、九割を超えている。また、スポーツや文化系の習い事や趣味特技等、多彩な活動に取り組んでいる子どもたちの姿が見て取れた。運動が好きな子どもたちも多い。

余暇の過ごし方についての調査では、休日の過ごし方として「家族と過ごす」が全体の七割、次いで、「友だちと遊ぶ」「地域の行事に参加する」が続く。「自宅で過ごす」と回答した子どもが三割いた。その内、「外出しない」が一割を占めた。

保護者への調査では、子どもたちに身に付けさせたいと望むものとして、「達成感」「技術力」「楽しむ」が、回答の上位を占めた。また、「向上心」「協調性」「健康面」にも、気を配っていることもわかった。

子どもの基本的な生活習慣である「睡眠」「学習」「食事」に関しては、七割以上の家庭が時間を決め、生活のリズムを確立している。また、「家での約束事」についても、八割以上の子どもが守っている」と回答している。

子どもの生活習慣の乱れが、学習意欲、体力、気力の低下につながる要因の一つとして指摘されている。この数値から、子どもの成長には、「早寝・早起き・朝ご飯」という規則正しい生活習慣が欠かせないと改めて感じた。

そのほか、保護者が抱えている希望や悩みの中で、「習い事」や「友だちとの遊び」の他に、「自由な時間がある」とよい」という回答も見られた。子どもたちにとって自由な時間は楽しみであるが、時間をうまく使えていない子どももあり、時間の使い方について親子での話し合いの場が必要であると見て取れた。

二 総括

子どもの健やかな成長を支えるためには、自然体験や文化芸術活動、地域行事への参加など、様々な体験を通して学ぶ機会を充実させる必要がある。退職校長会として、学校、家庭、地域に携わる者が相互に連携し、地域全体

で子どもを育てる体制づくりが不可欠である。放課後や休日に安心して過ごせる居場所づくりなど、子どもの健全育成を支える指導者となり、社会全体で子どもたちの育ちを支える取り組みが必要である。

大里支部総会 報告

五月九日（土）午前十時より「寄居町中央公民館」にて、ご来賓と会員四十四名の参加で開催された。開会式では神谷為義支部長より挨拶があり、ご来賓として寄居町教育委員会教育長 関根光男



様、北部教育事務所長 兵頭一樹様、埼玉県退職校長会副会長 富田政博様から祝辞をいただいた。

続いて昨年度高齢者叙勲を受けた方二名、春秋の叙勲を受けた方四名、計六名の会員に記念品が贈られた。また、新会員九名も紹介された。

挨拶で、神谷支部長は、会員三二七名で八年度がスタートし、大里支部の会員数は、県内五番目である。また、教育推進協議会では、一〇六名の参加者で県内で三番目であった。そして、年二回発行している会報も、よい評価を得ている。と話された。

寄居町の関根教育長は、少子化を踏まえ、鉢形小・折原小を令和十年に統合して城南小学校とし、城南中学校の敷地に新校舎を設立

して一〇四年生を入れ、五、六年生は中学校を改修して入れるとのお話があった。

北部教育事務所兵頭所長は、重点課題として、一 学力向上 二 総合的な不登校対策 三 教職員事故の防止 四 働き方改革 五 部活動の地域展開と人材育成の五つを挙げ改革に向け取り組んでいると話された。

埼玉県退職校長会富田副会長は、会員の減少に伴う予算の節約、代議員の削減、ニユースレター年一回発行等理解を求める話があった。協議は、神谷支部長の進行のもと進められ、提案された全ての議事が滞りなく承認された。

(文責 小林正俊)

随 想

秩父札所巡り

熊谷東 木島 直樹

秩父札所三十四観音霊場は、鎌倉時代に開創され、江戸時代に庶民に広まり隆興をみたと言われる。秩父札所は、秩父地域に点在する

三十四ヶ所のお寺で、秩父札所一番から三十四番まで約百kmの巡礼道になっている。

二年前に再任用の仕事を減らし時間に余裕ができ、かねてから希望もあったので、札所巡りを実行することにした。巡礼に際し心に

決めていたことは(最寄り)駅からは「マイカーは使わずに」「自分の足で歩く」ことである。

五月から十一月の(七月、八月を除く)月一回のペースで全五日好天の日を選んで巡礼の旅を実施した。熊谷駅から秩父鉄道に乗り、最寄りの駅で降りて札所一番から順に歩いて巡る。一日平均七つの寺を巡ると十五kmほど歩くが、日頃からランニングをしているので足に不安はなかった。

秩父駅近く市街地の札所があれば、山深い巡礼道を歩くこともあった。だが、巡礼者の道標として、巡礼道にロゴ入りの道標や看板が設置され、ほぼ迷うことなく寺に着くことができた。

歩いていると時間はかかるが、武甲山を中心とした秩父の山々、荒川の清流とそこに架かる美しい橋、静寂な山村風景が心を癒やしてくれる。心地よい疲れの中、霊場では父母や先祖の供養、家内安全を祈願し、御朱印を授与していただいた。

五日間の巡礼旅であったが、歩きながら学校現場での思い出や家族のことを思いながら、秩父路に身を置くことができた。令和八年度は、十二年に一度の午年総開帳の年であり、御本尊が公開されて

いるようである。会員の皆様に、機会があればおすすめしたい。



夏の花

人生は、 八合目からおもしろい

熊谷中央 飯田 明彦

「世界もあなたも、可能性に満ちている」

JICA海外協力隊のパンプレットの言葉に心動かされ、自分も可能性を求めてみようという海外協力隊に応募した。訓練所での語学(スペイン語)学習と若い世代に交じっての訓練を何とかクリアし、小学校教育隊員として中米グアテマラへ。任地コバン市にあるアルタ・ベラパス県教育事務所に所属し、市内八校を巡回する活動が始まった。

課題の一つ目は、学力向上。まずは計算力をつけること。担当の四・五・六年のクラスで授業の初め十分間の四則計算練習から取り組んだ。同時に、子どもたちに算数への興味を持つてもらうため、

パズルや九九かるた、コンパス、アートのアクティビティを取り入れた。授業は、文章問題を理解して式を立て、筆算して答えを導くという一連の流れを大切にしていた。授業時数の少ないグアテマラだからこそ計算力と問題を解決する力の両輪を育てたいと思い、地道に実践を積み重ねた。

二つ目の課題は、先生方への研修会。小学校教育隊員三人で協力しそれぞれの任地で行なった。研修という場がほとんどないグアテマラ。まずは先生方に興味をもってもらえるよう授業で行なっているアクティビティを紹介し、実際に体験してもらった。先生方は無邪気な子どものように盛り上がり、アクティビティの良さや意味を感じとってくれた。そして、教科書の使い方や授業方法、板書の仕方などの講話。終了後に質問に来る先生もいてその熱心に私たちの方が感動した。私の所属教育事務所でも研修会の大切さを理解してくれ、二年目の夏に五百人規模の研修会が開催された。学ぼうという意欲はグアテマラの先生方も同じ。私たちの小さな取り組みが先生方の資質向上の一助となり、学力向上につながったのならうれしい。

毎日、ホームステイ先のママのグアテマラ料理を食べ、洗濯物を手洗いし、時々お湯が出なくなるシャワーで汗を流す。子どもたちと遊び、先生方と授業について議論？する。そして色彩豊かなマヤの民族衣装。現地の人々とともに生活して得た多くの「つながり」は私の新たな力となった。

「人生は、八合目からがおもしろい」とは、登山家田部井淳子さんの言葉。協力隊での貴重な経験と二年間のグアテマラ生活で感じた泥臭い国際感覚を生かし、人生八合目からを楽しみたいと思う。今度はどこの国へ。いや、日本で。

「誰か」のいじやない

熊谷南 渡邊 雄市

「二十一世紀は人権の世紀」と言われ、世界中で人権に対しての意識が高まり叫ばれ、はや二十六年が経とうとしている。人権の世紀として、人権問題は解決しているのかと言えば、「否」と答えざるを得ない世界状況である。戦争や紛争という最大の人権問題が解決の糸口さえ見えない。

人権問題は現在、「『誰か』のことじゃない」という合言葉のもと、こども・女性・高齢者など、

十八の課題に分けられ、示されている。

私は、平成三十年一月一日、人権課題（問題）の解決に取り組む人権擁護委員となった。「人権擁護委員」その名称は知っていても、具体的にどのような活動をしているのか知らない人も多い。人権擁護委員の活動は主に「相談」「啓発」「救済」の三つである。差別等の課題（問題）に対して行われる人権相談と課題（問題）解決のための救済（助言）、そして、人権教室やイベント等を利用しての人権啓発活動がそれにあたる。

学校で人権教室を開催させていた。だいていることは大変ありがたいうことであり、紙芝居やDVD教材を活用した授業で、こどもたちに理解しやすいように「人権」を「一人一人が幸せに生きる権利」とし、「いじめ」や「差別」があると「しあわせな生活」が送れないと話している。

「『誰か』のことじゃない」は人権擁護活動の合言葉。「差別」は決して他人ごとではない。

「人権は一人一人が幸せに生きる権利」であることを実感できる世界が実現できるよう、微力ではあるが、人権擁護委員として「人権問題解決のための活動」を進め

ていきたいと思っている。



歓喜院・貴惣門

実家じまい

熊谷北 植木 朱実

教員をやめたら栗橋（今の久喜市）にある実家を直そうと考えていました。

しかし、今年の三月実家が空き巣に逢いました。近隣のことを考え、実家を手放すことに決めました。

まず、古物商さん四件に見てもらいました。一言に古物商といってもそれぞれ扱うものが違うため、引き取るものも違いました。障子がお金になったのは驚きでした。

次に、個人情報となるものを探して片付けたり持ち帰ったりしま

した。二ヶ月の間何度も往復するのは本当に骨が折れました。でも、祖父母や父母、妹とともに過ごした年月の一つ一つを片付けていくことは、自分の思いや郷愁も片付けて、実家をしまうための必要な時間だったと感じました。



赤松の林

「埼玉の母なる川 荒川」と、 川の博物館の思い出

深谷北 向井 均

今から二十年前、県立川の博物館に勤務する機会をいただいた。初任から二十一年間、中学校しか知らなかった私にとって、まさに目から鱗が落ちる毎日であった。博物館の仕事は多岐にわたったが、担当の一つに「荒川大模型一七三」があった。この展示物は

「埼玉の母なる川 荒川」の千分の一の立体模型で、人気の展示物だった。私は、この展示物を担当するにあたり、荒川の現状を調査した。

まず初めに、年に一度の防災ヘリに運良く同乗でき、荒川の源流域である甲武信岳の周辺を調査した。甲武信岳は、その名の通り山梨・埼玉・長野の三県にまたがり笛吹川、荒川、千曲川の分水嶺である。ヘリコプターの揺れには難儀したが、眼下の雄大な絶景に感動したことを覚えている。

次に、荒川が流れる各地域の水質調査をした。源流から熊谷市までは、武甲山を代表とする石灰岩層の地質を流れる影響で弱アルカリ性を示していた。ところが鴻巣市（旧吹上町）からは、突然中性から時々弱酸性に変化することがあった。その原因は何かと調査をすると、行田市の利根大堰から武蔵水路を通じて利根川の水が大量に流入するためだとわかった。特に冬の渇水期には、その傾向が顕著に表れていた。

また、中流域の川越市付近では荒川と入間川が並行して流れる区間が続く。これは、荒川の河床面が入間川より二mほど高く、合流時の逆流を防ぐため、川床を同じ

高さにするためのものだった。

この調査を含め、多くの経験ができた川の博物館での二年間は、私の宝物だ。博物館を訪れた小・中学生の、楽しそうな生き生きとした顔が、今でも忘れられない。



婦人像

第二の人生、パンとともに

深谷中 小林 富治

退職してから早いもので十二年目を迎えました。教職を離れた後は、深谷市役所人権政策課や深谷市立教育研究所に勤務し、教員とは異なる立場から地域や人に関わる貴重な経験を積むことができました。

その後、新たな挑戦として籠原調理師専門学校に一年間通い、調理師免許を取得しました。高校を卒業したばかりの若者たちと机を並べて学び、実習に取り組んだ日々は新鮮で、とても楽しく充実した時間となりました。

そして三年前、長年の夢であつたパン屋を開店しました。経営の難しさを感じることもありますが、それ以上にやりがいを感じる毎日

を過ごしています。お客様の中には、地域の方をはじめ、かつての同僚や保護者、教え子たち、さらにはインターネットやSNSを通じて来店してくださる方もおり、心から感謝しています。お店を始めたことで、何十年ぶりに再会できた方もおり、人とのつながりの有難さを改めて実感しております。

今では、新しいパンのアイデアを考えることも大きな楽しみの一つです。好きだった料理の経験を活かし、妻と二人で店を営めることに幸せを感じています。また、お客様から「美味しかったよ」と声をかけていただける瞬間が、何よりの励みになっています。地域の皆様に支えられながら、日々感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきます。

これからも健康に留意しながら、美味しいパンを焼き続け、皆様に喜んでいただけるよう努めてまいります。お近くにお越しの際は、是非「コパンヤ」にお立ちよりください。



この頃「フツ」と思う

深谷南 金子 正信

六十余年前に教員になった。当時、学級新聞、教材づくり、テスト問題紙・学級だよりなど殆んど手づくりであった。蠟引き原紙を鑢板に鉄筆で書き切りこの原紙を謄写板に貼り、版画と同じにローラーに黒練りのインクをつけ転すと印刷できた。結構手間が掛かったが、利用する子どもたちの姿を想うと効果的な印刷物にしようと思ふ楽しさがあつた。

四、五年後、印刷に輪転機が導入され鑢板や鉄筆が不要となった。更に数年後タイプライター、コピー、ワープロが加わり印刷業務が簡単になり有難く思つた。

その後ファックス、パソコン等が加わり報告文書や保存資料作成が多くなり、提出や報告期日の短縮、催促が増え多忙になった。

便利になった事務処理であるが時間と量が比例して増加、結果文書の粉失、データ洩れ、そして携帯電話によるいじめ、多種多様な詐欺、盗撮、広域犯罪、選挙妨害等、新たな差別が増加している。

人間のための機械が犯罪に利用されている。正に機械を使う人間の心の貧困からと感じる。

学校教育は勿論、社会教育、家庭教育等、国を挙げて人の心の育成が早急の課題と思える。

文科省ではAIやSNSを取りあげた検定教科書利用が計画されている。

戦争は「人の心の中で生まれる」という言葉があるが、機械文明と精神文明が同じレベルで発展していくことが所謂精神文明と機械文明の差「カルチュラルギャップ」を無くすことと思える。

近未来に不安を「フツ」と思う。



別府沼公園

猫

寄居 野口 泰明

夏目漱石先生をオマージュして書き始めたいと思う。

我が家には猫がいる。名前はある。

どこで生れたかと思ふと見当がつかぬ猫たちである。

.....

今日は、我が家の六匹の保護猫たちを紹介したい。

最年長は「トラ」。十一歳の雄猫。我が家に来たときはガリガリに痩せている野良猫だった。名前から想像できる通り茶色のキジトラ模様の猫である。雄猫ではあるが、母性の塊のような猫で、他の子の面倒をよく見ている。

次は「ミルク」と「クルミ」という名の姉妹猫。十歳。白い毛色と黒い毛色で、性格も正反對の姉妹である。

次に我が家に来たのは、九歳の「レイ」。娘が小学生の時に拾ってきた雄猫。拾ってきたときは、顎や足を怪我していて、小さい体で二回の手術を乗り越え、今では体重も五キロになるほど大きく成長した。黒と白のハチワレで目は緑色である。

最後に我が家の仲間入りをしたのは「ニャゴ子」と「すう」の親子。お腹の大きなニャゴ子が家の物置で赤ちゃんを産んだのが五年前。その後、体調の悪いすうとママ猫のニャゴ子を家で引き取るこゝろになった。今では体も大きくなり、元気に暮らしている。

縁あって我が家に来た猫たち。

彼らのお陰で、我が家には笑顔が溢れ、癒やされている。時々、トイレを失敗して洗濯物が増える、なんて事もあるが、猫との暮らしは思ひのほか、快適である。そして、我が家に幸せを運んでくれた猫たちを最後まで見るのが飼い主の役目だと思っている。

新入会員の声

よろしくお願いたします

熊谷東 中村 真由美

この四月より退職校長会に入会させていただきました。念願の教師となり、多くの方々に支えていただき、節目を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

四月からは、熊谷市立成田星宮小学校を本務校として、熊谷市内三校の小学校で初任者指導教諭として勤務しております。これまでの経験を生かし、新たな気持ちで頑張りたいと思います。今後ともご指導の程、よろしくお願いたします。

よろしくお願いいたします

熊谷東 齋藤 久美子

三月に熊谷市立久下小学校を役職定年し、退職校長会に入会させていただきました。

在職中は諸先輩よりひとかたならぬご厚情を賜り、心より感謝申し上げます。

現在はご縁をいただき、六名の初任者の指導に携わり、私自身日々学びながら励んでおります。まだまだ未熟ではありますが、これからも精進してまいります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

お世話になります

深谷南 小谷野 聖二

三月に川本北小学校を役職定年となり、退職校長会に入会させていただきましたこととなりました。

三十七年間の在職中は、多くの皆様に支えられ、ご指導いただき感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

四月より、日本教育公務員弘済会に勤務しております。教職員の皆様や子どもたちを支える仕事ができますことに、改めて感謝をして取り組んでおります。今後ともご指導よろしくお願い致します。

よろしくお願いいたします

深谷中 新井 由美子

三月末日をもちまして深谷市立岡部小学校で役職定年を迎えました。この度、退職校長会に入会させていただきましたことになりました。

校長在職中は、先輩方から多くのご指導をいただき、職務を全うすることができました。

この四月からは、深谷市立岡部中学校で通級指導教室の立ち上げ及び生徒の指導をしております。生徒の輝く笑顔のため、今後ともご指導よろしくお願いいたします。

よろしくお願いいたします

深谷南 吉田 勇

この三月、役職定年に伴い県教育局の職員を退職しました。

四月からは県内にある女子大学で教員をめざす学生を指導する仕事に携わっております。校長経験が二年のみの私が入会すべきか迷いましたが、校長会の皆様には大変お世話になりましたので、少しでも恩返しできればと思い入会いたしました。これからもご縁を大切にし、先輩方から学ばせていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

しなやかに 新たな一歩を

深谷南 強瀬 雪乃

この度、退職校長会に入会いたしました。諸先生方が築かれた歴史ある本会に加わることができ、深く感激しております。現役時代は、温かいご指導を賜り心より感謝申し上げます。これからは、新しい学びを重ねながら微力ではございますが、教育の発展に貢献しつつ皆様との絆を大切に、しなやかな第二の人生へ挑戦したいと存じます。

今後共、変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

正解のない問いに

向き合った日々

深谷中 齊藤 寛

本郷小学校三年、川本中学校二年、深谷中学校三年、合計八年間の校長職を務め、この三月に役職定年し、現在は、深谷市立南中学校で教諭として勤務しています。

八年間の校長職の半分ほどは、コロナ禍での学校経営を余儀なくされ、常に正解のない問いに向き合う日々であったような気がします。そのような中でも、職員とともに無我夢中で奮闘した日々が、何物にも代えがたい宝物であったと、今、改めて感じています。

よろしくお願いいたします

深谷北 福島 宏之

この三月をもちまして熊谷市立新堀小学校で役職定年を迎えました。在職中は皆様方から温かいご指導ご厚情を賜り心より感謝申し上げます。

四月からは熊谷市内四校で、初任者の指導に携わっております。引き続き、未来を担う子どもたちのために働くことができることに感謝するとともに、子どもたちの笑顔のために尽力したいと思えます。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

よろしくお願いいたします

深谷北 梅澤 修

三月に役職定年を迎え、特例任用校長として深谷市立岡部小学校に勤務しています。

この年齢での異動は、なかなか厳しいものがありますが、これまでお世話になった恩返しと考え、改めて頑張っていきたいと思えます。

今後とも『凡事徹底』をモットーに、地道な努力を積み重ねて参りたいと思います。諸先輩の皆様方には、今しばらくの間、ご支援をよろしくお願い致します。

叙勲者

春の叙勲（班別順）

熊谷班 茂 木 照 司 様
深谷班 小 柳 光 春 様

秋の叙勲（班別順）

深谷班 篠 崎 正 明 様
寄居班 鳥 塚 富 弥 様

高齢者叙勲（班別順）

深谷班 篠 崎 忠 男 様
寄居班 加 藤 勇 様

地区だより

手軽に気軽に身近な歴史を

感じてみませんか 鎌倉街道

深谷南 吉野 雅彦

退職後、埋蔵文化財調査に携わり、五年目を迎えました。自分が育ち、教鞭をとった地域の歴史を掘り起こすことに、刺激と高揚を感じながら働いています。

今回は、会員の皆様に、明日にも訪ねられる身近な郷土

の話題を提供します。

かつて、武蔵国北部には、鎌倉から地方へとつながる「鎌倉街道 上道（かみつみち）」がありました。鎌倉から北上して武蔵国府の府中から入間地区、比企地区を通り、上野・信濃へ抜けるルートが大里地区を通っていました。歴史の授業で習った「いざ鎌倉」と御家人が鎌倉へと駆けつけるアレです。

深谷市武蔵野や寄居町男衾には、巨大な案内地図が埼玉県により設置されています。



鎌倉街道の痕跡（深谷市荒川）



寄居町用土のJR八高線には「鎌倉街道踏切」があり、児玉から信濃へ通じています。

鎌倉街道という名称は、主要道に通じる脇道にも、その名は使われたようです。

熊谷市には、地名として「鎌倉町」が残り、南は吉見から、北は長井の渡しで利根川を渡り太田金山に通じています。深谷市の本郷小学校の東門と弘光寺のあいだに残る道は、櫛引地内では道の痕跡は失われましたが、荒川の渡河点で「上道」に合流します。深谷市の中瀬から上敷免に続く街道は、今も曲がりくねった農道としてその姿をとどめ、最近、案内版も設置されました。

スマホ片手に、古い地図や航空写真と比べつつ、古道を歩くのもお勧めです。

第二十九回

春季親睦ゴルフ大会

令和八年六月十二日（金）、上里ゴルフ場で春季親睦ゴルフ大会を開催しました。後半の途中で小雨が降るコンディションでした。最後は、天候と同様晴れやかな姿でラウンドを終えることができました。秋季親睦大会は、十一月十八日を予定しています。多くの方の参加をお待ちしております。大会の結果は次の通りです。

- ・優勝 黒須 聖治（熊谷）
- ・準優勝 島崎 一雄（深谷）
- ・第三位 猪野 和幸（熊谷）
- ・ベストスコア 林 健次（熊谷）

（文責 室岡 寛昭）



挿入絵画について

挿入絵画は、絵画同好会の原口一明先生（熊谷南）より提供していただきました。

みんなの広場

短歌

東京ラーメン

熊谷北 荻野 俊行

グランドゴルフの仲間と共に
行く店は 夫婦と娘の三人営業

藤倉君が営むラーメン店の名に
付く序詞は春夏秋冬

呑み会をラーメン店で今宵また
ラーメン食わずに帰路につく会

絵画

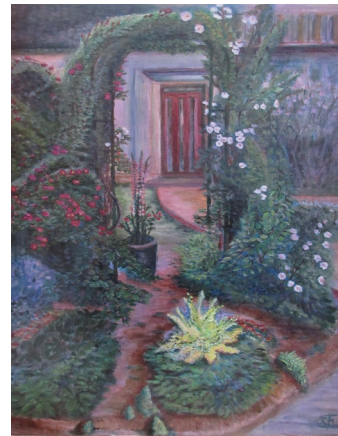
「複製画のある部屋」

深谷北 風間 勲



「我が家の薔薇」

熊谷東 福島 智



「若い女（ひと）」

深谷南 野澤 優



写真

熊谷西 齋藤 重利



御田植祭 餅みかん振る舞い



御田植祭 代掻き

お詫びと訂正

第60号「みんなの広場」絵画作品提供者のお名前に誤りがありました。誠に申し訳ありませんでした。訂正させていただきます。

誤 蜂巢 栄 ↓ 正 蜂須 栄

編集後記

会員皆様のご協力により、第六十一号が完成しました。ご執筆いただきました皆様には心より御礼申し上げます。また、絵画に写真、短歌に溢れる感性の豊かさともみずみずしさには心を動かされました。ありがとうございます。

埼玉県退職校長会HPにアクセスできるQRコードです。大里支部の情報も公開しております。



埼玉県退職校長会 HP

令和8年度
広報部員

寺 剛 (深谷中)	沢 健二 (熊谷東)
森 田 幸和 (熊谷中央)	飯 野 和明 (熊谷西)
戸 坂 好伸 (熊谷南)	福 田 達郎 (熊谷北)
関 根 直史 (深谷北)	笠 原 正之 (深谷中)
笠 黒 澤 清之 (寄居)	保 泉

埼玉県退職校長会大里支部会報

(第六十一号)

発行 令和八年八月一日

発行者 支部長 神谷 為義

印刷所 東洋印刷 株式会社

深谷市深谷町一―三三五

〇四八(五七二)〇五六七